アルヴァ・アールト

建築家、デザイナー、アカデミー会員アルヴァ・アールト（Alvar Aalto）は、1898年2月3日にエテラ・ポフヤンマー地方のクオルタネに生まれました。彼は、フィンランドで最も重要かつ国際的に最も著名な建築家です。アールトの建築表現は、初期の明確な機能主義から、アールトセンターに代表されるより多彩なモダニズムの表現へと進化していきました。

アールトは極めて幅広く多彩なキャリアを築き、ガラス製品、家具、住宅、文化施設、住宅区域全体、工業地帯、都市中心部を設計しました。アールトは、その建築の中に人間と自然の間の結び付きを留めようとしました。彼は、すべての建物を細部にいたるまで総合芸術作品として設計しました。

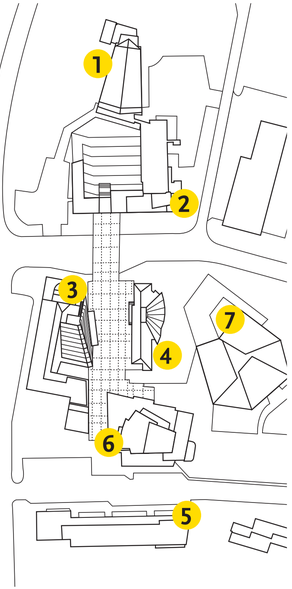
アールトセンター

セイナヨキのアールトセンターは、世界的にも例のない総合建築芸術です。セイナヨキには、1925年に設計され、埋一手を加えられず保存されている若き日のアールトの作品、セイナヨキ自衛団ビルもあります。

アールトセンターは、6つの建物と1988年完成の市民広場で構成されています。

1. ラケウデンリスティ教会（1957–1960）
2. 教区センター（1965–1966）
3. 市庁舎（1961–1962）
4. 市立図書館（1964–1965）
5. 合同庁舎（1966–1968）
6. 市立劇場（1986–1987）

さらに 7. アビラ図書館（2012）JKMMアーキテクツ



1. ラケウデンリスティ教会

1951年、アールトはセイナヨキが小さいながら発展の最中にあった町の教会の設計者を募集する建築コンペに参加しました。コンペ実行委員会の見解では「ラケウデンリスティ」の設計は圧倒的でした。

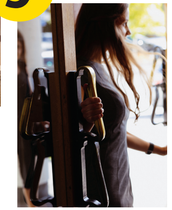
大聖堂の形をとったこの教会の天井は聖歌隊席に向かって低く、狭くなり、床は祭壇の方へ傾斜しています。照明、教会ホールのランプ、銀製の聖体拝領用の食器、祭壇布、礼拝堂のステンドグラス、時計塔のふもとにある噴水はアールトがデザインしたものです。

2. 教区センター

教区センターに造られた教会の庭は、野外での催しを開催できるようアールトが設計したものです。教区ホールの音響のクラッディングにはヨーロッパブナ、ベンチにはアカマツが使用されています。ラケウデンリスティ教会の内装にも、同じ木が使用されています。教会の高さ65mの時計塔は、セイナヨキのランドマークです。塔にはエレベーターで上がることができます。

5. 合同庁舎

アールトは、新しい行政センターを白塗りの3階建て合同庁舎で補完、完結させました。アールトには、教会を起点として市民広場を通る軸の最終地点、アールトの表現を借りれば「穏やかな背景の建物」を設計したいと考えました。建物の中で建築学的に最も重要な空間は元裁判所で、現在は会議室として使用されています。合同庁舎には、税務署や警察などがありました。



セイナヨキへの電車の所要時間
ヴァーサから　1時間
タンペレから　1時間
ヘルシンキから　3時間
ユヴァスキュラから　3時間
オウルから　3時間

Seinäjoki

アールトセンター
Koulukatu 21
60100 Seinäjoki

visitseinajoki.fi/alvaraalto
visit.alvaraalto.fi
#aaltoinspiroi
#aaltocities

出典
www.seinajoki.fi
www.seinajoenseurakunta.fi
Alvar Aalto -museo® Alvar Aalto – Seinäjoki cultural and administrative centre

3. 市庁舎

市庁舎の外装の濃紺のセラミック製の棒状タイルは、光の移り変わりでさまざまに輝きます。「外装はセイナヨキ市庁舎のものであって、私のものであってはならない」とアールトは、素材の選択についてこう述べています。市議会の塔のように高い議場では、議員席が放射線状に配置されています。また、外装にも同じ構図が反映されています。市庁舎の西棟は当初住居として使用されていましたが、1970年代から1980年代にかけてオフィスに変わりました。

4. 図書館

図書館の閲架室の扇形は、建物で最も独自性の高い視覚的特徴です。閲架室の格子越しに差し込む光は、天井、壁、棚に美しく影を落とします。アールト図書館は当初の状態に復元され、2015年5月にリニューアルオープンしました。隣接する新旧の図書館は地階で繋がっています。アールト図書館には世界最大のアールトのグラスコレクションもあります。

3

4

6. 劇場

アールトは1968年に図面を制作しましたが、建物はエリッサ・アールトの指揮により1987年にようやく完成しました。建物の外壁は、アイボリーのセラミック製棒状タイルでできています。広々としたロビーのインテリアは、アルテックのデザイン製品によるものです。ロビーには、アールトのユニークな由木のレリーフ（全6点）が展示されています。アルヴァ劇場の緞帳は「ダイダロス」といい、美術家のユハナ・プロムステッドがデザインしました。

7. アピラ図書館

メイン図書館であるアピラ図書館はアルヴァ・アールトが設計した文化および行政センターの隣に位置します。2012年に開館したこの図書館の主任設計者はアスモ・ヤークシです。上から見るとクローバー（apila）のように見えるこの建物は建築関連のコンテストにノミネートされたり、賞を受賞しています。時には市民のリビングルームになり、時にはミーティングルームとなるアピラ図書館の側面には鍋が使われています。

7

6

AALTO

アールトセンターおよび
アピラ図書館
セイナヨキ
フィンランド